

JOC及びNCAAの取組み

JOCキャリアアカデミー事業では、人間力を高め、キャリアに対してしっかりと準備をしていくことにより、トップアスリートが不安なく競技に集中でき、さらなる競技力向上を図れるよう、現役時代から年代に応じた教育研修、キャリアカウンセリング、就職支援を実施している。

目標	<p>・トップアスリートとコーチが安心して競技に取り組めるよう、<u>将来設計を踏まえたキャリアプランをさまざまな方法でサポートする。</u></p> <p>・トップアスリートとコーチの人的資源の社会還元を促進する。</p>
対象者	トップアスリート、コーチ
開始時期	2008年1月

<事業内容>

○各種スキルアップ研修

【世代別研修】

チームビルディング研修、メディアトレーニング、
目標設定の仕方、英語への学習意欲 など

【公開講座】

スポンサーの集め方、トップコーチ講話、
メンタルトレーニング講座 など

<研修受講者実績> 平成27年度(2015年度)のべ4,576人

○キャリアカウンセリング

- ・進学(大学、大学院、専門学校の優待など)、留学
- ・現役続行、引退後の就職、適職検査、キャリアアドバイス
- ・メンター養成(元トップアスリートによるメンタリング) など

<カウンセリング数実績> 計866名(平成20年～平成28年)

○アスナビ

現役続行のための就職支援
トップアスリートと企業をマッチングする面談会を開催
<アスリート採用実績> 計100名(平成22年～平成28年)

競技別 シニア向け

ジュニア向けの研修を、シニアクラスの日本代表に向けてグレードアップさせたプログラムが多いが、専門知識や見識を深めるといった講義のオファーも多い。他競技と合同で行う研修も実施している。



ソチオリンピック前に、チーム力を高めるために実施。

チームビルディング研修

団結力の重要性と具体的アプローチを知る

大一層へ向けてゲームとしての団結力を高めるために、またオリンピック直後の年など、次に向けて新しいゲームが発足したときなど、全員が目指す方向やテーマを共有するために実施。ビジネスマン研修などで行われているゲームビルディングゲームを、アスリート用にアレンジ。このゲームを受けたことで、ディスカッションにつなげていくことも。

🕒 基本60分コース

ディスカッション・ミーティングトレーニング



ビジネス研修などで行われている手法で意見交換

複数の人が関わり合い、意見交換する際のポイントを学ぶ。ワールドカフェ形式などを活用し、ファシリテーターが指導にあたりながら、活発なディスカッションを行う。テーマは、「4年後にどんな最高のゲームにしたいか」「自分の競技をもっと国内で広めるために、自分たちに何ができるか」「次のオリンピックで大きな成果を出せるゲームになるには」など。このディスカッションをきっかけに、「自分たちでも合書のときなど、いろんな話が自然とできるようになった」という事後報告も。

🕒 基本90分コース

メディアトレーニング



模擬インタビューで取材経験を共有

現職のアナウンサーを招き、大会直前のインタビューのロールプレイング（模擬取材）を行うなど、ジュニアよりもより実践的な内容で実施。アナウンサーからは、「取材側」の意見も聞ける。せっかくの取材の機会を、競技の普及、発展のためにどう効果的に活用していくことができるかをみんなで考える。自分の考えをわかりやすく伝える技術の習得、競技の魅力をどう表現するか。実際にインタビュー映像を視聴し、取材対応の仕方についてゲームディスカッションも行う。テレビ局への見学も可能だ。

🕒 90分コース



テーマをローテーションするので、みんな得意を共有できる。



「取材側」にもなったスマイルジャパン。現職のアナウンサーと模擬取材。

一歩先で考えにくい質問をしてもらい、深く考えて対応する練習も。



指導力に定評のある外国人講師が、受講者のやる気を引き出してくれぬ。



外国人講師は細かい方が多いので、楽しく質疑が学べる。



スポーツ界で話題の、脳外科医・林成之先生の「勝負脳」の講義を、競技ごとに特化して、よりポイントを絞った内容でお話しいただく。事前に競技団体から提供してもらった先生への質問事項を元に、準備が進められる。選手とコーチに分かれての受講も可能。「ヒントを得て、大事な大会で結果を残すことができた」「今まで無自覚にやってきたことが、理にかなっているとかかって自信が持てる」という選手も。

🕒 基本90分コース

英語のメディアトレーニング



競技ごとの特別テキストで実践レッスン

外国人コーチと密にコミュニケーションをとりたい。国際大会の影響で、メディアに対して英語で対応したい。試合中やレセプションなどで、他国の選手と交流したい。英語を使う機会ほとんどないが、英語習得が速々として進まないという選手は少なくない。このレッスンでは、大会などの英語のインタビューの実践練習を通して、よくある質問にどのくらいの語学力があれば、どれだけ答えられるのかを確認し、選手習得へのモチベーションを高める。レッスン後に、競技ごとのメディア対応の実例英文読解の、特製リーフレットを贈呈。

🕒 基本90分コース

勝負脳の鍛え方

競技ごとに特化したより専門的な講義

スポーツ界で話題の、脳外科医・林成之先生の「勝負脳」の講義を、競技ごとに特化して、よりポイントを絞った内容でお話しいただく。事前に競技団体から提供してもらった先生への質問事項を元に、準備が進められる。選手とコーチに分かれての受講も可能。「ヒントを得て、大事な大会で結果を残すことができた」「今まで無自覚にやってきたことが、理にかなっているとかかって自信が持てる」という選手も。

🕒 基本90分コース

[MORE Programs]

オリンピックムーブメント

専門家にオリンピックの基本知識を講義してもらう。

オリンピック事情

オリンピックメダリストらをゲスト講師として招き、世界のトップで戦い続けてきた経験についてお話ししていただく。2WAYの質問形式で行うなど、運営方法は多岐。

語学レッスン

英語以外にも、韓国語、ドイツ語、ロシア語などのトレーニングも行っている。

セカンドキャリアセミナー

引退後のキャリアについてなど、現役時代からどのように自身のキャリアについて考え、準備しておくことが大切かを考える。ライフラインを費いたり、退職給付の結果をひまえて、自身の報酬なども行う。

公開講座

選手、コーチから要望の高い講座を、不定期に公開形式で実施している。無料。味の素ナショナルトレーニングセンターで開催されることが多いが、自主参加なので、受講費は個人負担となる。公開研修に興味がある選手、コーチは、キャリアアカデミーに問い合わせ、開催の通知を希望すれば、研修の案内が随時メールで届く。2013年度はのべ275名が受講。

① トップコーチの講話

元日本代表監督、強豪高校の指導者らによる、双方向コミュニケーションを基本とした、新着者勉強会。ソフトボール元日本代表監督、宇津木妙子氏ら招いての講話実施あり。スポーツ界以外の分野の著名人の講演も実施。



② メンタルトレーニングとは？

メンタルトレーニングを受けてみたいが、基本的な知識がないという選手、コーチ向けに、さまざまな競技の現場でメンタルトレーニングを行っている方に、メンタルトレーニングとは何かについて、お話しいただく。

★ほかにもさまざまな競技の選手が集まって開講した「勝負脳・基礎編」など、今後は「英語のメディアトレーニング」なども公開講座形式で行っていく予定。

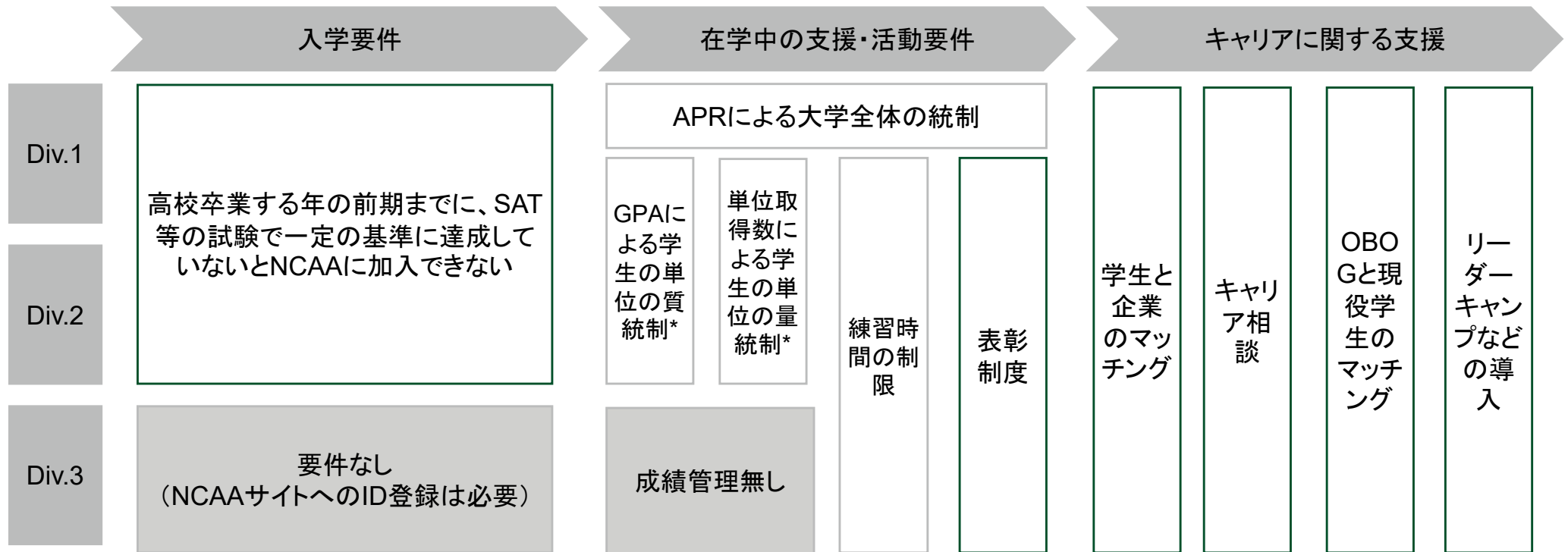
米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

米国NCAAでは、中学・高校時代からNCAA加入の学業要件を課している。またDiv.1では学業とスポーツを両立し、リーダーシップを発揮できる人材を輩出するための成績基準等の規程が整備されている。

米国NCAAの学業支援内容の全体像

目指すべき理想の人物像
(7つのコアバリューより抜粋)

- 模範的學生であること(奉仕活動・スポーツと学業の両立)
- 高いスポーツマンシップとインテグリティを備えている事
- 文武両道を高いレベルで遂行できる事
- ダイバーシティへの理解
- リーダーシップの高さ(自主性・哲学)



米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

Div.1では高校在籍中のGPAや履修すべき授業の基準、また外部テストの点数を入会すべき基準に設定している。なお、救済措置として第二基準(レッドシャツ制度)というのも設けている。

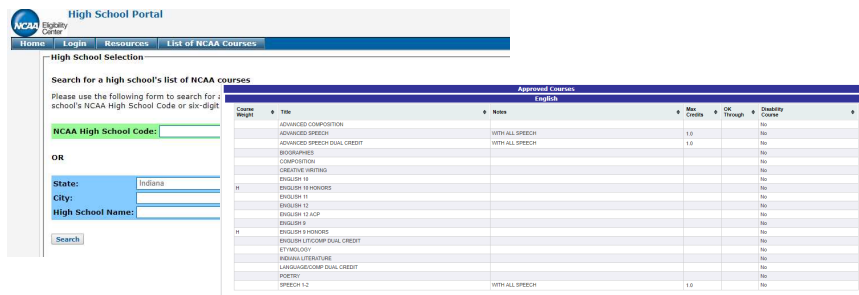
Div.1入会の条件

I NCAAが定めた16コアコースの履修

- 下図のように、英語・数学等NCAAが定めるコアコースを高校卒業するまでに16コースを履修する必要がある



- 各高校のどの教科がコアコースに該当するかはNCAAのHPから確認が可能(High School Portal)



- Div. I については、16コースの内10コースは、高校卒業年の前期で履修が完了してはならない

II GPA最低限2.3以上かつSAT・ACTテストの基準値達成

- 下図のように、最低限のGPA基準とそれに取得平均GPAに相当するSAT・ACTテストの点数を取得する必要がある

DIVISION I FULL QUALIFIER SLIDING SCALE			DIVISION I FULL QUALIFIER SLIDING SCALE		
CORE GPA	SAT*	ACT SUM	CORE GPA	SAT*	ACT SUM
3.550	400	37	2.750	720	59
3.525	410	38	2.725	730	60
3.500	420	39	2.700	740	61
3.475	430	40	2.675	750	61
3.450	440	41	2.650	760	62
3.425	450	41	2.625	770	63
3.400	460	42	2.600	780	64
3.375	470	42	2.575	790	65
3.350	480	43	2.550	800	66
3.325	490	44	2.525	810	67
3.300	500	44	2.500	820	68
3.275	510	45	2.475	830	69
3.250	520	46	2.450	840	70
3.225	530	46	2.425	850	70
3.200	540	47	2.400	860	71
3.175	550	47	2.375	870	72
3.150	560	48	2.350	880	73
3.125	570	49	2.325	890	74
3.100	580	49	2.300	900	75
3.075	590	50	2.275	910	76
3.050	600	50	2.275	910	76
3.025	610	51	2.250	920	77
3.000	620	52	2.225	930	78
2.975	630	52	2.200	940	79
2.950	640	53	2.175	950	80
2.925	650	53	2.150	960	81
2.900	660	54	2.125	970	82
2.875	670	55	2.100	980	83
2.850	680	56	2.075	990	84
2.825	690	56	2.050	1000	85
2.800	700	57	2.025	1010	86
2.775	710	58	2.000	1020	86

GPAが高ければ取得すべきSATは低くなる

【レッドシャツ制度】FULL基準GPAに満たしていなくても、第二基準を達成していれば1年間の猶予を得ることができる措置制度。試合には出場できないが奨学金受けとりや練習が可能。(#5年で卒業という考え方)

III 高校卒業

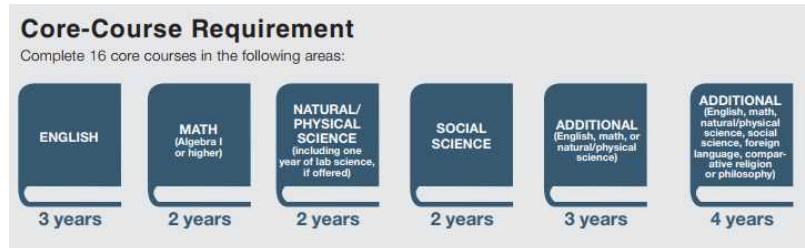
米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

Div.2でもコアコースの取得やGPA・外部テストの基準があるが、期限や取得すべき点数はDiv.1と比較して緩く設定されている。

Div.2入会の条件

I NCAAが定めた16コアコースの履修

- 下図のように、英語・数学等NCAAが定めるコアコースを高校卒業するまでに16コースを履修する必要があるが、Div.1に比べて取得すべき年数要件などは緩い



- Div. II では卒業までに上記コアコースを履修完了すればよいという要件

Div. III では奨学金・補助金がない代わりに入会のための成績要件は特に設けていない。

II GPA最低限2.2以上かつSAT・ACTテストの基準値達成

- レッドシャツ制度はないが、フル基準と救済基準があり、Div. I よりも低い設定となっている

2018 Division II Competition Sliding Scale

2018 Division II Partial Qualifier Sliding Scale

Use for Division II beginning Aug. 1, 2018			Use for Division II beginning Aug. 1, 2018		
Core GPA	SAT Verbal + Math ONLY	ACT	Core GPA	SAT Verbal + Math ONLY	ACT
3.000 & above	400	37	3.050 & above	400	37
3.275	410	38	3.025	410	38
3.250	420	39	3.000	420	39
3.225	430	40	2.975	430	40
3.200	440	41	2.950	440	41
3.175	450	41	2.925	450	41
3.150	460	42	2.900	460	42
3.125	470	42	2.875	470	42
3.100	480	43	2.850	480	43
3.075	490	44	2.825	490	44
3.050	500	44	2.800	500	44
3.025	510	45	2.775	510	45
3.000	520	46	2.750	520	46
2.975	530	46	2.725	530	46
2.950	540	47	2.700	540	47
2.925	550	47	2.675	550	47
2.900	560	48	2.650	560	48
2.875	570	48	2.625	570	48
2.850	580	49	2.600	580	49
2.825	590	50	2.575	590	50
2.800	600	50	2.550	600	50
2.775	610	51	2.525	610	51
2.750	620	52	2.500	620	52
2.725	630	52	2.475	630	53
2.700	640	53	2.450	640	54
2.675	650	53	2.425	650	54
2.650	660	54	2.400	660	55
2.625	670	55	2.375	670	55
2.600	680	56	2.350	680	56
2.575	690	56	2.325	690	56
2.550	700	57	2.300	700	57
2.525	710	57	2.275	710	58
2.500	720	58	2.250	720	58
2.475	730	59	2.225	730	59
2.450	740	60	2.200	740	60
2.425	750	61			
2.400	760	61			
2.375	770	62			
2.350	780	63			
2.325	790	64			
2.300	800	65			
2.275	810	66			
2.250	820	67			
2.225	830	68			
2.200	840 & above	70 & above	2.000	820 & above	68 & above

救済措置の基準

最低基準がDiv. I に比べて低い

III 高校卒業

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

Div.1のリクルートの制限(高校1年生~2年生相当/SOPHOMORE YEAR)

Div.1	男子バスケット	女子バスケット	アメフト	その他競技
リクルートに関する資料の授受	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス関連、NCAA関連のパンフレット受領可能、アスリートに関係のないリクルート書類受領可能 			
	<ul style="list-style-type: none"> 6月15日以降アスリート関連の書類も受領可能 			<ul style="list-style-type: none"> 男子アイスホッケーのみ1月1日以降アスリート関連の書類も受領可能
電話での相談	<ul style="list-style-type: none"> 学生の負担であれば大学コーチに電話が可能 			
	<ul style="list-style-type: none"> 6月15日以降でコーチからの電話が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 大学コーチからは電話不可能 	<ul style="list-style-type: none"> 大学コーチからは電話不可能 	<ul style="list-style-type: none"> 大学コーチからは電話不可能 男子アイスホッケーは1月1日以降コーチから電話可能 女子アイスホッケーはインターナショナル校から1度のみ、もしくは7月の間のみコーチから電話可能
キャンパス外での連絡	<ul style="list-style-type: none"> 実施不可能 			
				<ul style="list-style-type: none"> 男子アイスホッケーは6月15日以降可能
大学への公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> 実施不可能 			
大学への非公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> 非公式かつ認められた期間内であれば訪問は可能 			

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

Div.1のリクルートの制限(高校2年生相当/JUNIOR YEAR)

	男子バスケット	女子バスケット	アメフト	その他競技
SMSやメールでのコンタクト	<ul style="list-style-type: none"> Sophomore年6月15日以降連絡可能 NCAAに届け出が必要 	<ul style="list-style-type: none"> Junior年の9月から連絡可能 NCAAに届け出が必要 	<ul style="list-style-type: none"> Junior年の9月から連絡可能 	<ul style="list-style-type: none"> Junior年の9月から連絡可能 NCAAに届け出が必要 男子アイスホッケーはSophomore1月1日から可能
リクルートに関する資料の授受	<ul style="list-style-type: none"> 受領可能 			
電話での相談	<ul style="list-style-type: none"> 学生の負担で実施可能 			
コーチによる電話	<ul style="list-style-type: none"> 無制限で可能 	<ul style="list-style-type: none"> Junior年の9月から可能 	<ul style="list-style-type: none"> Junior年の4月15日～5月31日までの間で1度可能 	<ul style="list-style-type: none"> Junior年の9月から連絡可能 女子アイスホッケーは週一 水泳/飛込・クロスカントリーは7月1日から
キャンパス外での連絡	<ul style="list-style-type: none"> 実施可能(アメフトのみ7月1日～) 			
大学への公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> 1大学に1度のみ、最大で5大学可能(Div.1)。Div2は上限なし 	<ul style="list-style-type: none"> 女子FinalFour大会後の木曜日(4月)から可能 	<ul style="list-style-type: none"> 許可しない 	
大学への非公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> 非公式かつ認められた期間内であれば訪問は可能 			

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

Div.1のリクルートの制限(高校3年生相当/SENIOR YEAR)

	男子バスケット	女子バスケット	アメフト	その他競技
SMSやメールでのコンタクト	<ul style="list-style-type: none"> • JUNIOR年と同じルール 			
リクルートに関する資料の授受	<ul style="list-style-type: none"> • 受領可能 			
電話での相談	<ul style="list-style-type: none"> • 学生の負担で実施可能 			
コーチによる電話	<ul style="list-style-type: none"> • 無制限で可能 		<ul style="list-style-type: none"> • 期間内であれば週一 • 署名をすれば無制限 	<ul style="list-style-type: none"> • 署名をすれば無制限 • 女子アイスホッケーは週一
キャンパス外での連絡	<ul style="list-style-type: none"> • 学生の負担で実施可能 			
大学への公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> • 1大学に1度のみ、最大で5大学可能(Div.1)。Div2は上限なし(バスケ以外の競技はSENIOR年の授業開始日から) 			
大学への非公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> • 非公式かつ認められた期間内であれば訪問は可能 			
各種頻度	<ul style="list-style-type: none"> • コーチから学生や家族へのコンタクトは7回まで • 署名をすれば無制限 		<ul style="list-style-type: none"> • コーチからは6回までコンタクト可能 • 署名すれば無制限 • 初期評価(9~11月) • 二次評価(4/15~5/31) 	<ul style="list-style-type: none"> • 3回以内であればコンタクト可能 • 署名すれば無制限

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

Div.2とDiv.3のリクルート制限

	Div.2	Div.3
リクルートに関する資料の授受	<ul style="list-style-type: none"> • 大学関連やアスリートに関係ない書類はいつでも受領可能 • アスリート関連はJUNIOR年の6月15日以降受領可能 	いつでも受領可能
電話での相談	<ul style="list-style-type: none"> • JUNIOR年の6月15日以降であればコーチから無制限で可能 • 学生負担であれば無制限 	無制限
キャンパス外での連絡	<ul style="list-style-type: none"> • Junior年の6月15日までであればコーチから連絡可能 • 連絡回数は無制限 	<ul style="list-style-type: none"> • SOPHOMORE年以降であればコーチから連絡可能 • 連絡回数は無制限
大学への公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> • SOPHOMORE年の6月15日～開始 • Div.1大学へは1大学1度、上限5大学 • Div.2へは無制限 	<ul style="list-style-type: none"> • JUNIOR年の1月1日～開始 • Div.1大学へは1大学1度、上限5大学 • Div.3へは無制限
大学への非公式訪問	<ul style="list-style-type: none"> • 期間内であれば無制限 	<ul style="list-style-type: none"> • 無制限

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

表彰制度の詳細(1/2)

表彰名	対象者	応募要件や決定機関	表彰時期	その他(狙いなど)
Theodore Roosevelt Award	NCAA(学生・コーチなど)に関する <u>卒業生</u> (宇宙飛行士など)	推薦制度 NCAAオーナーズコミッ ティ	年に1度	<ul style="list-style-type: none"> 競技、成績、社会貢献の総合評価で著しい成績や貢献を納めた人を表彰する制度 在学生のみならず卒業生も含みNCAA卒業生が社会へ貢献した場合も評価し称える
Today's Top Ten Awards	<u>最終学年の生徒</u> 10名	優秀選手獲得者かつ GPA3.3以上	年に1度	
the Silver Anniversary Awards	<u>卒業25周年を迎えた卒業生</u> (NFL選手等)	卒業後の競技成績や社会成果や貢献など(推薦)	年に1度	
the Award of Valor,	卒業生を含む競技に関連する <u>学生・コーチまたは管理者</u>	防犯や警察からの表彰の有無(推薦)	年に1度	
the Inspiration Award	卒業生を含む競技に関連する <u>学生・コーチまたは管理者</u>	闘病からの復帰等周囲に勇気と感動を与えた者(推薦)	年に1度	
NCAA woman of the year	<u>女子学生</u>	推薦及び成績での評価	年に1度	<ul style="list-style-type: none"> 競技、成績、社会貢献の総合評価で著しい成績や貢献を納めた女性を表彰する制度
Elite 90	<u>在學生(90のNCAA大会が対象)</u>	推薦及び成績での評価 GPAや年間試合ポイント・試合出場75%以上等	年に1度	<ul style="list-style-type: none"> 各競技毎の成績や学業成績を高いレベルで到達した学生を称える制度

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

表彰制度の詳細(2/2)

表彰名	対象者	応募要件や決定機関	表彰時期	その他(狙いなど)
Student-Athlete and Bob Frederick Sportsmanship Awards	<u>学生及びコーチ</u>	競技等を通じてスポーツマンシップ(倫理観・尊重等)を表現した者	年に1度	NCAAの理念である平等性やインテグリティの表彰
NCAA President's Gerald R. Ford Award	<u>卒業生含めたNCAAの関係者</u>	NCAA競技の理念に基づきリーダーシップを発揮して大学スポーツの価値を高めた者	年に1度	卒業生を含み大学スポーツの振興や発展に大きく寄与した人への表彰
Division II Award of Excellence	<u>Div.2の大学やチーム</u>	地域奉仕活動のため優秀な取り組みを実施した大学やチーム	年に1度	地域貢献活動の促進

【对学生】

単に競技成績だけでなく、GPA等を含め学業との両立をいかに高い基準で実施できたかを表彰

【对卒業生】

卒業後の社会貢献(宇宙飛行士、プロリーグでの活躍等)を表彰

【その他】

関係者の動機づけのために様々な賞を準備し幅広く在学生以外も表彰

米国NCAA及び米国加盟大学の学業支援

卒業後のキャリアを意識した情報提供やフォーラムの開催を通じて学生のキャリア支援を実施している。

キャリア支援等

NCAAキャリアセンター

- ✓ NCAAに加入している学生は無料でNCAAが運営するキャリアセンターを活用できる
- ✓ 企業情報や求人情報の検索や面談も申し込みインターン情報の検索などが可能



リーダーシップ開発

- ✓ NCAAには、リーダーシップ開発局が存在し、学生、ADやコーチなどに対してリーダーシップ開発プログラムを提供している
- ✓ 特に1997年から始まった人間形成やリーダー育成を目的としたリーダーシップフォーラムは5000人以上が参加している(参加には大学の推薦などが必要な場合もある)

Student-Athlete Leadership Forum



引用: <http://fsacareercenter.ncaa.org/> <http://www.ncaa.org/about/resources/leadership-development/student-athlete-leadership-forum>